

博士課程教育リーディングプログラム 平成26年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	名古屋大学	申請大学長名	濱口道成
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	神保文夫
整理番号	F05	プログラムコーディネーター名	松浦好治
プログラム名	法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

基本コンセプト：「アジアを理解し、日本が説明でき、多様な文化的背景をもったリーダーたちと協力して組織を作り、社会運営の基礎になる法制度・社会制度を設計し、制度移植を「施工管理」し、制度を機能させることができる人材」を育成すること。

日本は1990年代以降、アジア諸国を中心に法改革・社会改革支援を積極的に行ってきた。その背景には、日本の社会運営能力に対する高い国際的評価（とくにアジアの漢字文化圏）がある。日本のリーダーは、今後ますますアジアの中で存在感を高め、国際的な貢献をすることを期待されている。

日本の法・政治学系の人材は、問題分析・整理、組織統括、社会運営、紛争処理の面で能力を発揮してきた。本プログラムは、この種の能力を日本/外国という仕切りにとわれることなく世界を自由に往来して発揮できる人材を「制度の国際移転というユニークな現場」（法整備支援プロジェクトなど）を本格活用して育成しようとするものである。

社会改革や法改革は、法典や制定法を作るだけで実現できるわけではない。各社会の仕組、政治、歴史文化、宗教、担い手となる人材の動員などに関する総合的な理解と深い洞察があって初めて、有効な社会改革や法改革を構想し、実現することができる。アジアに貢献できるリーダーは、アジアを多角的に理解できる能力を持たなければならない。しかも、そのリーダーは、日本をきちんと説明できる能力を持たなければならない。なぜなら、法整備支援の現場では、つねに相手国のリーダーや関係者に対して「なぜ、日本では、こうしているのか」をコンパクトに説明しなければならないからである。

アジアを知り、日本を知ることは、一人ではできない。改革支援も一個人の作業ではない。日本の経験と知恵をアジアのために活用できるリーダーには、多様な文化的背景をもったリーダーたちと組織を作り、複数の外国語を通して、円滑なコミュニケーションをして、優れた提案を限られた時間でまとめ、組織を導くアイデアを提供できる能力が求められる。

本プログラムは、日本人学生と留学生が長期的に協働する実践的な教育研究の現場を構築し、制度の国際的移転に貢献できるリーダー群を国際的な研究・教育協力で、育成しようとするものである。

2. プログラムの進捗状況

1. 計画に沿ってプログラムを進めている。中間評価の指摘を参考にして、プログラムの改善に努め、当初の目的を達するように努力を継続する。本年度の進捗状況の概要は、次のとおりである。
2. 第三期生7名の受け入れを行った。博士前期課程の学生については、必修科目中心のカリキュラムに沿った教育を行い、博士課程後期の学生については、各自の研究計画に沿った研究と実務体験を積むように指導をしている。
3. 教育研究の現状は、ほぼ計画に沿ったものとなっている。しかし、留学生については、計画どおりの受け入れとなっているが、日本人学生については、計画どおりの受け入れとなっていない。学生の基礎能力は高いものの、受入数については、改善が必要な状況である。この点は、中間評価でも指摘された点であり、改善のための対応を検討している状況である。
4. プログラムの国際性、多言語・多文化性、学生による共同研究の質や実践的経験の幅、海外インターンシップや海外研究調査の内容については、優れたプログラムであるという評価を海外の専門家から受けている。
5. 学内的には、名古屋大学の6リーディングプログラムの連携を強化するためのリーディング大学院推進機構が設置され、共同の教育科目やプログラム間の連携、名古屋大学全体の国際化とリーダーシップをもった学生の養成への検討作業を進めている。